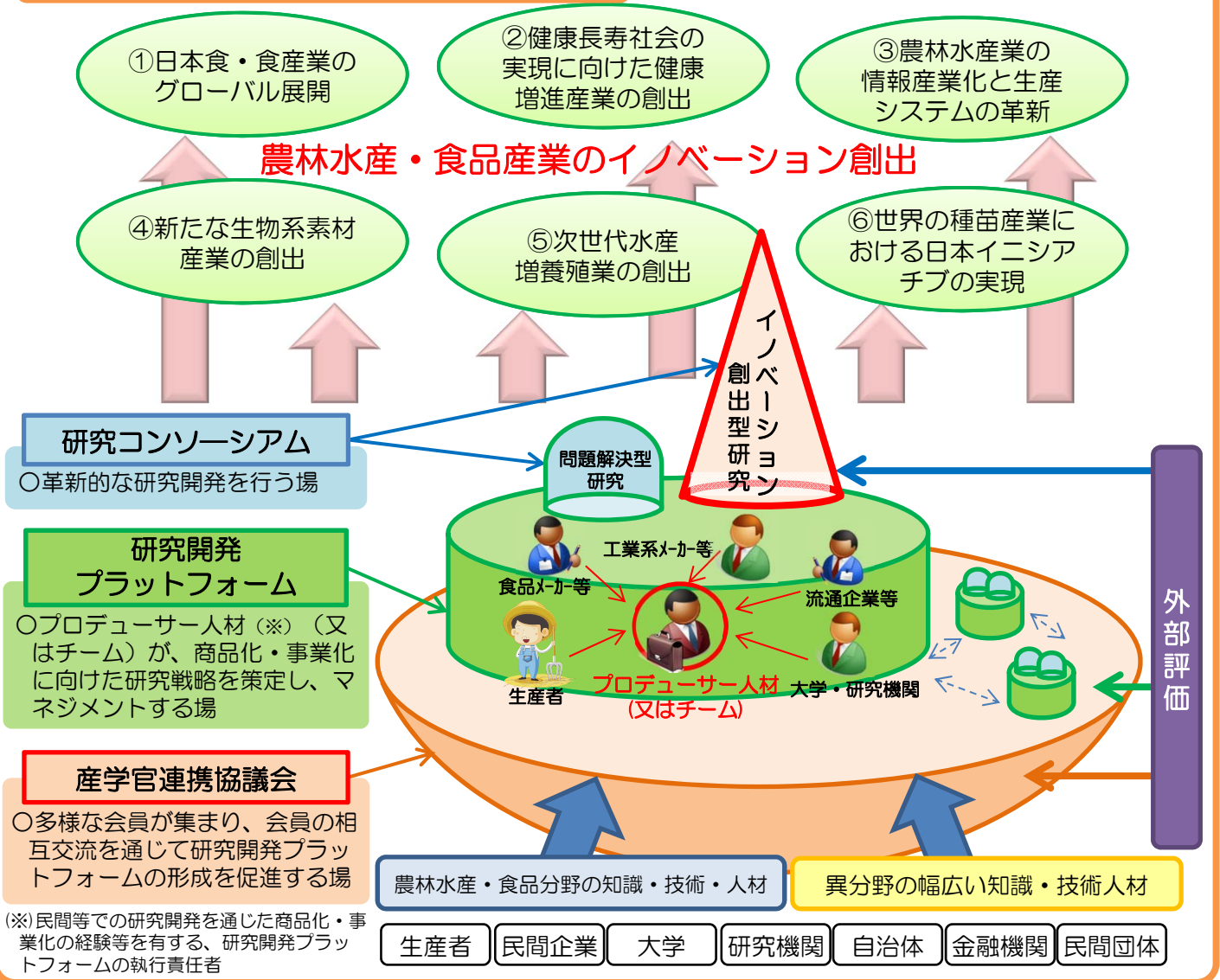


「知」の集積と活用の方の展開方向（概要）

背景及び経緯

- 我が国農林水産・食品産業の成長産業化のため、農林水産・食品分野に他分野の知識・技術・アイデアを導入し、オープンイノベーションにより革新的な研究開発を行い、商品化・事業化につなげる、新たな産学連携研究の仕組み（「知」の集積と活用の方）が必要。
- このため、昨年5月から有識者検討会（座長：妹尾堅一郎氏（NPO法人産学連携推進機構理事長））を開催し、昨年9月に中間とりまとめを実施。その後、産学官連携協議会（準備会）を立ち上げるとともに、試行的なセミナー・ワークショップ等を開催しつつ、本年3月に平成28年度からの展開方向をとりまとめ予定。

「知」の集積と活用の方のイメージ



今後5年間の展開方向

- 「知」の集積と活用の方においては、生産現場の問題解決と経営革新につながる技術開発を推進し、生産者の所得向上に貢献することを目指す。
- オランダ（フードバレー）などの取組みを踏まえ、継続的な評価と改善を行いつつ、5年、10年、15年という中長期的な視点で「知」の集積と活用の方を育てていくことが必要。